

最近のインドネシア・ルピアの動き

Raku
Yomi

楽読(ラクヨミ)

nikko am
fund academy

インドネシアの通貨ルピアは、今年2月を底に4月上旬にかけて急速に持ち直しに転じた後、足元では方向感に乏しいながらも比較的落ち着いた動きとなっています。この背景には、同国の経常収支の改善が挙げられます。経常収支は2013年7-9月期の▲86億米ドルから、10-12月期には▲43億米ドルと赤字幅が半減し、2014年1-3月期の赤字幅も前期比でほぼ横ばいとなりました。昨年半ばから燃料補助金の削減や連続利上げなどによって財政・金融引き締めを行ない、内需抑制による経常収支の改善を図っていることが一定の成果を上げたとみられます。また、天然ガスや食品の輸出が増加したことで、貿易収支が黒字となったことも寄与しました。加えて、中央銀行の目標からはいまだ大きく上方に乖離しているものの、インフレ率が4月まで3か月連続で低下していることも市場で好感されたと考えられます。

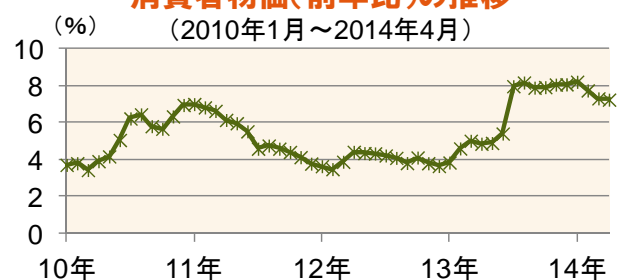
今後、ルピア相場が本格的な上昇基調に転じるには、引き続き経常収支の改善など同国経済の体質改善が不可欠です。政府および中央銀行が、引き締め気味の政策により、輸入を抑制し対外収支改善を進める姿勢を維持する中、主要輸出先である日本の景気持ち直しやアジアの底堅い景気拡大を受け、輸出の増加傾向が強まる可能性があることは、経常収支の改善を促し、通貨ルピアを支えていくもののみられます。

なお、インドネシアでは、4月に実施された総選挙で、ジャカルタ知事のジョコ・ウイド氏を大統領候補に指名した最大野党の闘争民主党が第1党となりましたが、7月の大統領選で単独候補が擁立可能な得票数には達しなかったことから、他の党と連立を組む形で、ジョコ・ウイド氏と第3党となったグリンドラ党の候補、プラボウォ氏で大統領の座を争うことになりました。政権交代に起因する不透明感の高まりがルピア相場に悪影響を及ぼす可能性はあるものの、両候補がさらなる経済成長に向けて構造改革を推し進める政策を打ち出し、それを競う展開となれば、海外投資家の関心を集め、インドネシアへの資金流入を促すものと期待されます。

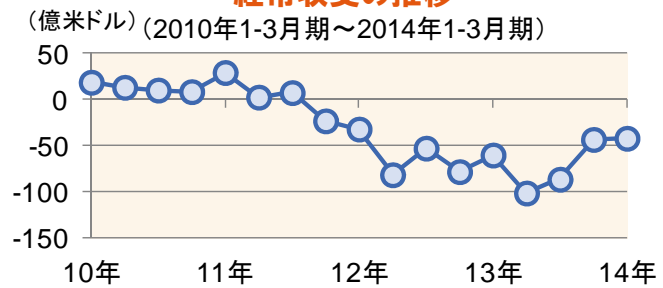
ルピア相場の推移



消費者物価(前年比)の推移



経常収支の推移



(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記は過去のものであり、将来を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。